



Business Assurance

- SGSのご案内
- IATF 16949
- TISAX®
- ISO42001
- サステナビリティ
- EUバッテリー規則

SGS in Brief

- 1878年設立 (フランス・ルーアンにて穀物の輸出入監査サービス開始)
- 本社 スイス
- 世界最大級のネットワークを持つ検査・試験・監査・認証サービス機関
- グローバルネットワーク



2024年の売上高 67.94億スイスフラン (約1兆1,679億円)
※レートは2024年12月のaverageを使用

Société Générale de Surveillance

Our History

- 1878
SGS is founded
- Mid 20th Century
Diversified into inspection, testing and verification services
- 1981
Listed on the Swiss Stock Exchange
- Today
140+ years in business

SGSジャパンとしての活動

ビジネス アシュアランス

- ISO他、各種マネジメントシステムの認証サービス
- 製品認証サービス
- GHG(温室効果ガス)排出量検証サービス
- 森林認証(FSC森林管理認証・CoC認証)
- 食品認証(FSSC22000, HACCP, SQF, GLOBALG.A.P.等)
- 各種トレーニングサービス



本社: 横浜ビジネスパーク

検査、検証、試験、分析サービス

- 産業機械類の代行検査、輸出品適合証明書発行、船積み前検査
- 電子製品、工業製品、プラスチック、金属類、繊維類等の試験、検査、分析サービス
- 石油・ガス・化学品類の検査、検量および査定
- 海外経済協力・援助プロジェクト申請書類の審査
- ワイヤレス関連機器類の認証試験および査定
- 無線、製品安全、EMC試験サービス

Solution Provider !



SGSがご提供できる認証・ビジネスソリューションサービス

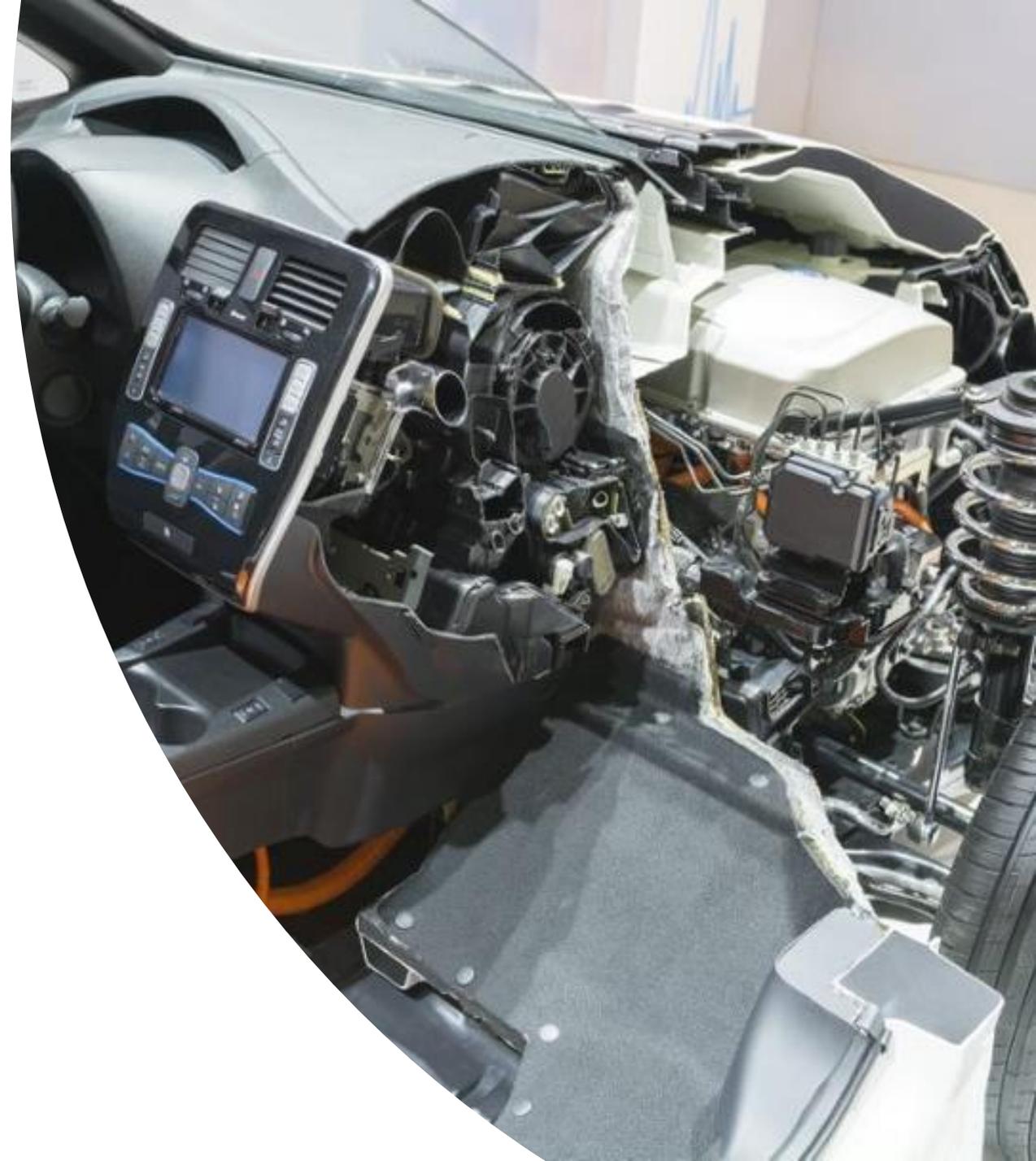
質の高い認証サービスの提供により、世界標準の信頼を提供しています。

- ISO9001:品質マネジメントシステム
- ISO14001:環境マネジメントシステム
- ISO45001:労働安全衛生マネジメントシステム
- ISO/IEC27001:情報セキュリティマネジメントシステム、JIS Q 15001:個人情報保護マネジメントシステム
- ISO/IEC27017:ITサービスマネジメントシステム、クラウドセキュリティ
- **ISO42001:AIマネジメントシステム**
- **TISAX :自動車産業の情報セキュリティマネジメントシステム**
- **IATF16949:自動車生産及び関連サービス部品における品質マネジメントシステム**
- ISO13485:医療機器における品質マネジメントシステム、医薬品医療機器等法基準適合性認証審査、医療機器海外法規制審査
- ISO29990, ISO29991:非公式教育・訓練における学習サービス認証
- ISO22000, FSSC22000:食品安全マネジメントシステム、その他食品関連認証
- ISO22301:事業継続マネジメントシステム(BCMS)
- ISO39001:道路交通安全マネジメントシステム
- ISO20121:イベントサステナビリティマネジメントシステム
- ISO22716、EFfCI認証:化粧品GMPガイドライン
- ISO15378:医薬品向け一次包装材用GMP
- サステナビリティレポート、環境報告書等の第三者保証
- カーボン・サービス(GHG温室効果ガスの排出量検証サービス、CDP関連サービス 等)
- FSC森林管理認証、CoC認証
- SGS-Facility Security Evaluation: SGS施設セキュリティ評価サービス
- SGS 食品への意図的な異物混入防御のための物理的対応評価サービス
- 統合マネジメントシステム、グローバル認証
- 二者監査 他



IATF 16949とは

- サプライチェーンにおける不具合予防、
ばらつき及びムダの低減
- 継続的改善をもたらす品質マネジメントシステムの開発
 - 自動車産業サプライチェーンに属する生産事業所における品質向上を目的としたマネジメントシステム規格です。
 - 自動車メーカーに車載品を納入するまでおよび、EV充電システム製造業のサプライチェーンにおける生産事業所組織が認証取得できる規格です。
 - ISO 9001をベースに自動車産業固有の要求事項が追加されています。そのためISO 9001と併せて使用します。
 - 更に適用範囲には顧客固有の要求事項を含めることになっています。



IATF16949:2016概要(組織・規格)



International
Automotive
Task
Force

認定審査機関
世界に39機関のみ
審査員 3,300名
Data as of Mar 2025
日本人は推定150名程度



IATFオーバーサイトボディ(監督機関)



- ISO/TS16949 第1版 1999年
- ISO/TS16949 第2版 2002年
- ISO/TS16949 第3版 2009年
- IATF16949 第1版 2016年**

日本自動車工業会
(2002年第2版制定時参画)



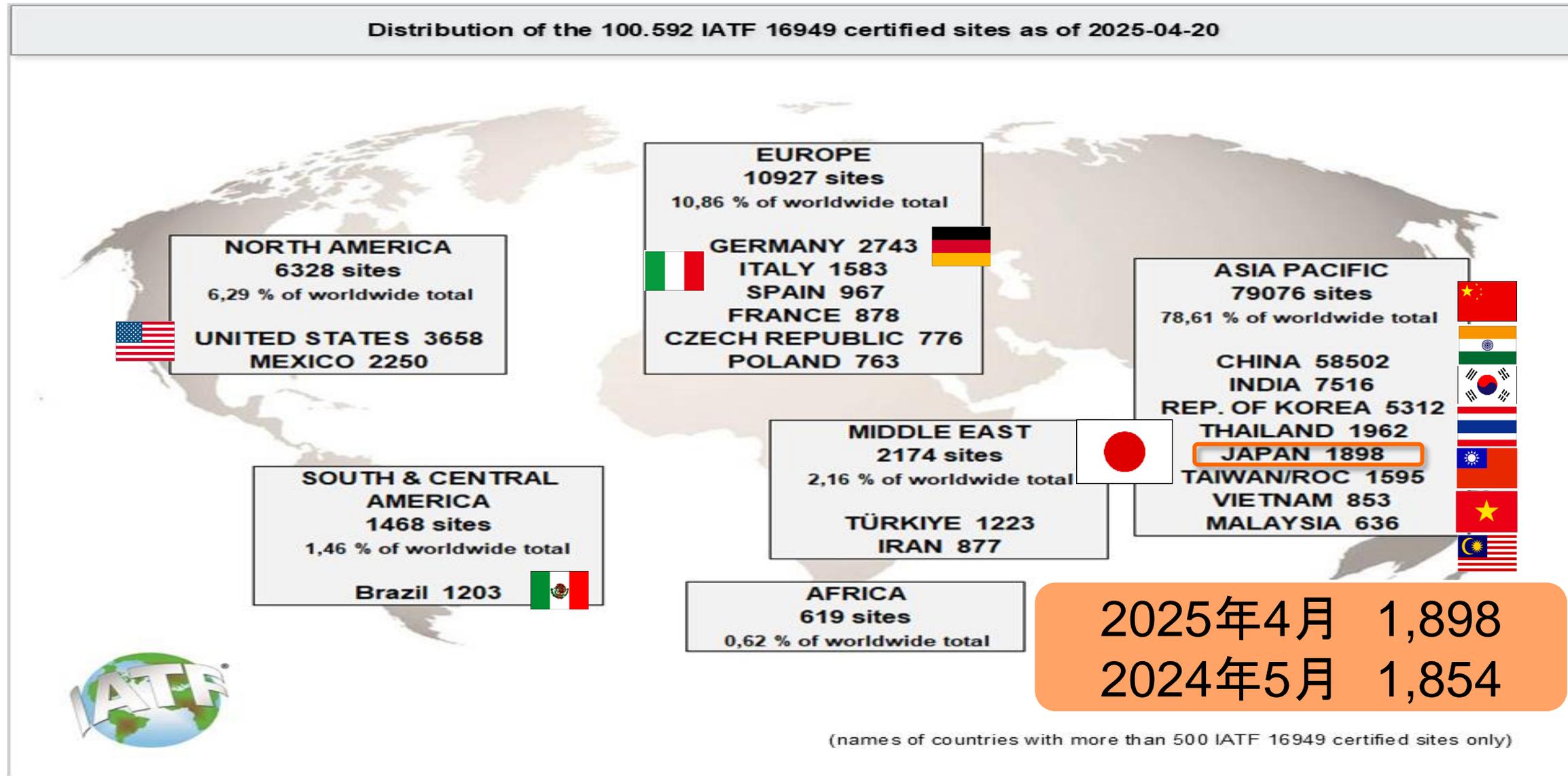
TS=Technical Specification(技術仕様書)



IATF16949の登録証発行状況

■ 2025年4月20日末現在の登録サイト数 100,592

Distribution of the 100.592 IATF 16949 certified sites as of 2025-04-20



IATF審査ルール 第6版について

11 January 2024

The IATF has approved Stakeholder Communiqué SC-2024-002.

The purpose of this Stakeholder Communiqué is to advise all IATF Stakeholders that the IATF approved changes to the Rules for Achieving and Maintaining IATF Recognition (known as “IATF Rules”) on 4 December 2023. These changes will be published as the “Rules for achieving and maintaining IATF recognition”, 6th Edition.

[IATF Stakeholder Communiqué SC-2024-002 – Release of Rules 6th Edition](#)

- 2024年1月11日 IATF審査ルール第6版の発行がアナウンスされました
- 2024年4月にAIAGより英語版(日本語版も)購入できるようになりました
- 2025年1月1日から適用

なぜ、 IATFの認証取得するの？

- お客様からの取得要請があった。
- 要請はないが、競合他社がとっている
- または他社より先に優位に立ちたい。
- 品質を高める活動に取り入れたい。

経営者が決定し実行



良い物を、適正な価格で、
約束通りの納期で

■ ISOやIATFの要求事項

- （何々してくださいね）に賛同し、この教科書に習って活動すれば、品質を高められ、競争優位に立ち、会社を強くでき、取引条件があってもクリアできる。
- 商売も繁盛、事業継続性を高められる。

IATF16949審査ができる適用対象

- 自動車部品およびEV充電システムを製造している事業所 (Site)
- 自動車とは 二輪車、乗用車、バス、トラック
- 取得は自動車サプライチェーンに属する組織
- 支援事業所 (Remote Location) 単独では取得不可

ISO 9001との違い

■ ISO9001:2015とIATF16949:2016の要求事項

| 規格条項 | | ISO9001 | | IATF16949で増える | | 合計 | |
|------|-----------------------|---------|----------|---------------|----------|-----|----------|
| | | 条項数 | Shall項目数 | 条項数 | Shall項目数 | 条項数 | Shall項目数 |
| 4項 | 組織の状況 | 5 | 13 | 4 | 7 | 9 | 20 |
| 5項 | リーダーシップおよび コミットメント | 5 | 6 | 5 | 8 | 10 | 14 |
| 6項 | 計画 | 5 | 9 | 4 | 9 | 9 | 18 |
| 7項 | 支援 | 14 | 24 | 15 | 53 | 29 | 77 |
| 8項 | 運用 | 24 | 56 | 58 | 151 | 82 | 207 |
| 9項 | パフォーマンス評価 | 8 | 16 | 12 | 35 | 20 | 51 |
| 10項 | 改善 | 4 | 8 | 5 | 18 | 9 | 26 |
| 合計 | | 65 | 132 | 103 | 281 | 168 | 413 |

ISO 9001との違い

■ 規格＋顧客固有の要求事項(Customer Specific Requirement)

■ プロセスの有効性及び効率の審査: 5.1.1.2項

・ プロセスの有効性＋効率の、継続的改善が必要

・ 従って、『**停滞は不適合を生み出す要因**』 * 是正だけでは継続的改善にならない

有効性: 計画に対する活動結果の達成の程度

効率: 達成された結果と使用資源(人・物・金)の関係

審査について

■ 審査ルール第5版では許可されていた**予備審査は第6版で削除された**

■ 第1段階審査～第2段階審査の**間は90日以内**

・ **是正確認後に登録証発行是正確認のため、フォローアップ審査が実施される**

* ISO9001の場合: 予備審査なし、第1段階～第2段階は6ヶ月以内、

フォローアップ審査なしで登録証発行あり(マイナー不適合の場合)

ISO 9001との違い

■ 自動車産業プロセスアプローチによる審査

- ・ プロセス、及びその順序・相互作用の明確化 : 4.4.1項(ISO 9001)
- ・ タートル図の準備 (Input, Output, KPI他)
- ・ 内部監査もプロセスアプローチで : 9.2.2.2項

■ 内部監査の充実

- ・ QMシステム監査 + 製造工程監査 + 製品監査 : 9.2.2.1項
- ・ 内部監査員・第三者監査員の力量実証 : 7.2.3項、7.2.4項

ISO 9001との違い

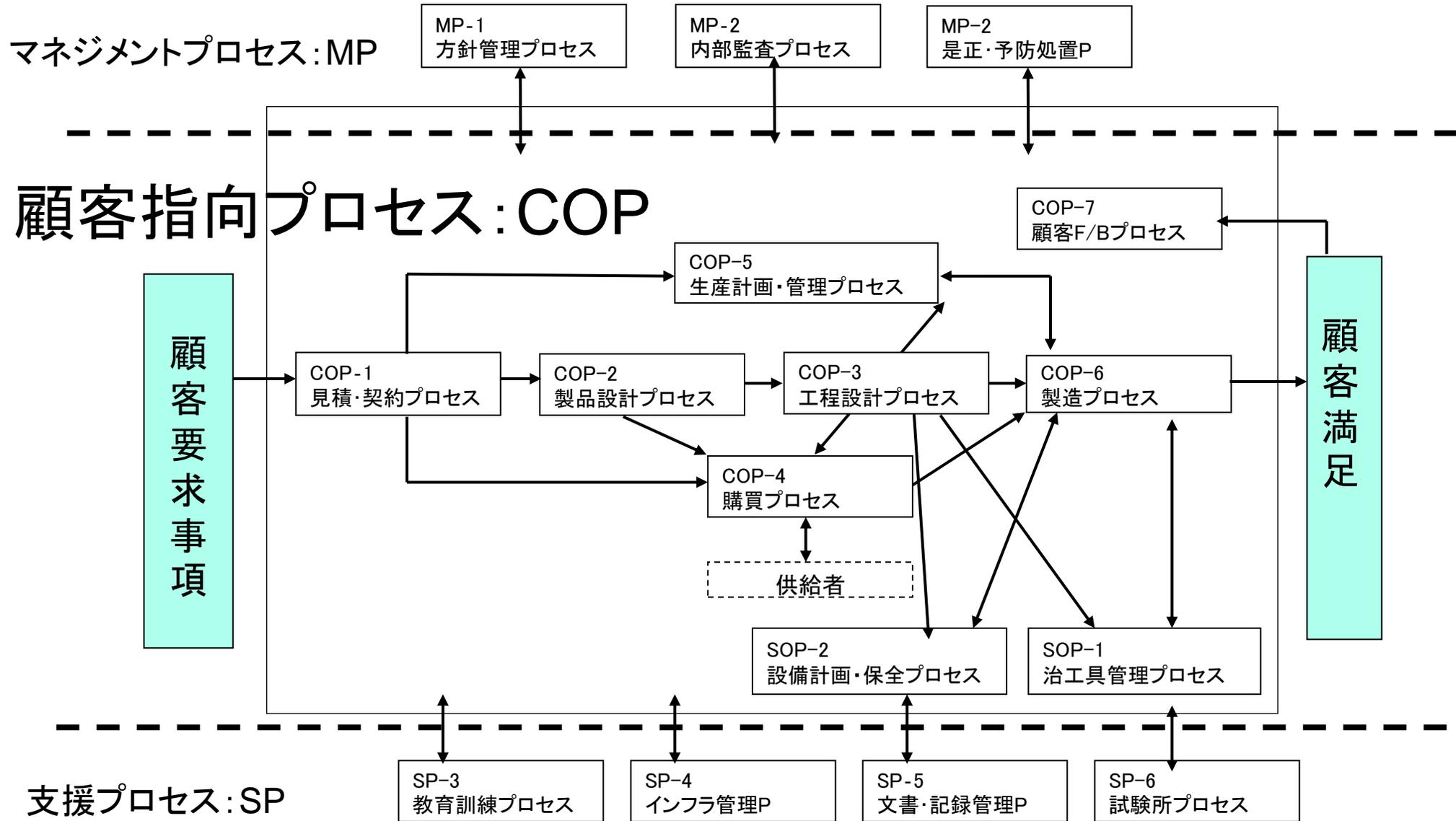
- 全てのシフトを審査する ※夜中のシフトも審査あり
- 工場全体の人数が対象となる ※構内外注先の人員もカウント

審査登録の範囲

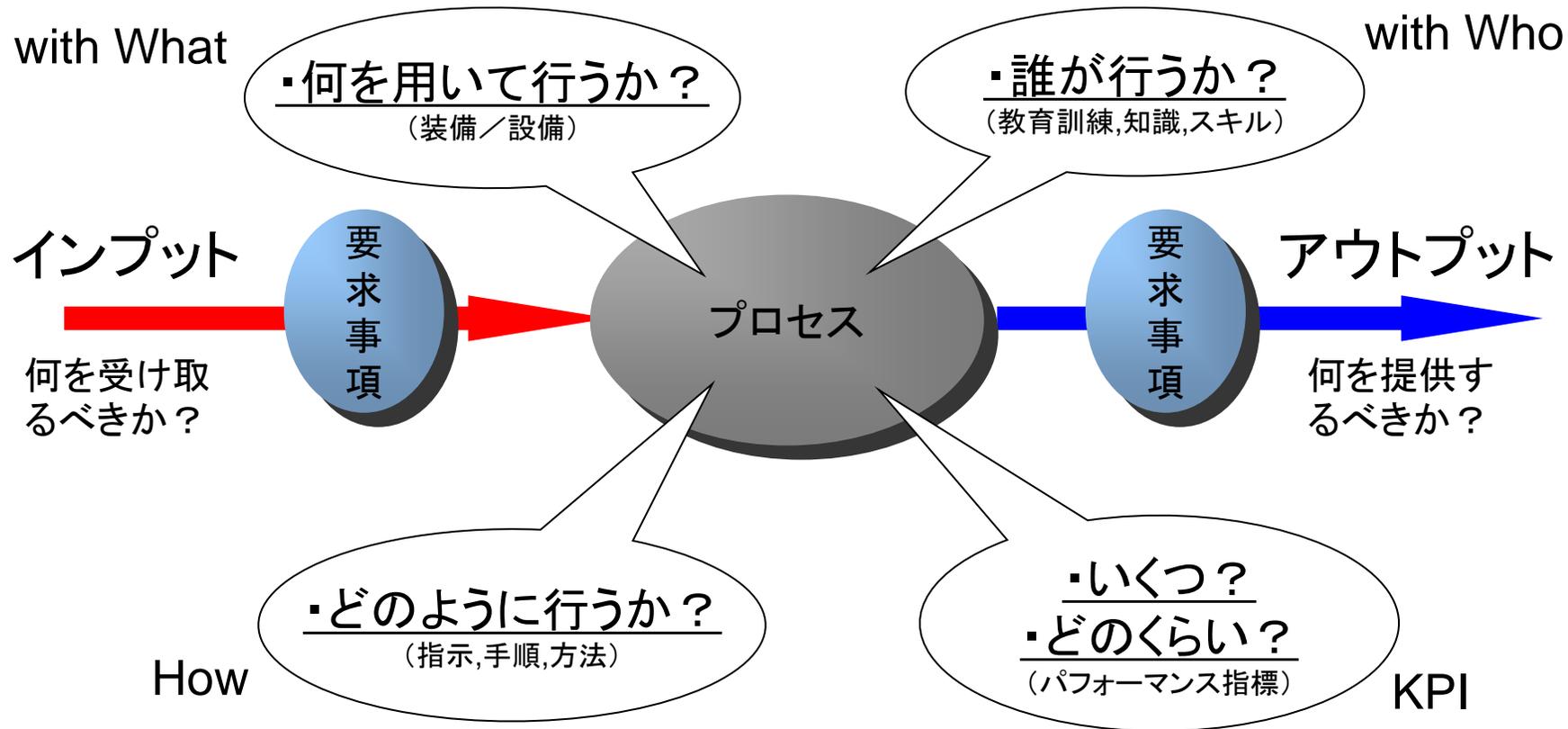
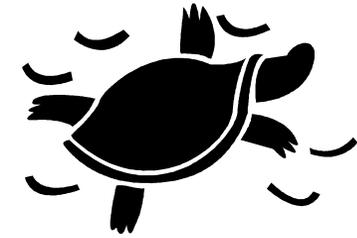
- 顧客と製品範囲
 - ⇒ 全ての自動車産業顧客、全ての自動車用製品が対象
 - 即ち、限定顧客、限定製品での受審は出来ない
- 登録証表記は英文が標準 ※和文はオプション別料金
- 製品設計責任の有/無を明記

プロセスアプローチの採用

プロセス体系図の一例



プロセスに関する4つの質問 (タートル図)



IATF16949 受審スケジュール

2025

2026

| ステップ | | 6~12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
|-------|------------------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 準備 | システム構築 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・マニュアル・手順書準備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・コアツール導入・活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・各種指標の決定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・キックオフ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・パフォーマンスデータ他収集 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 準備 | 内部監査（システム・工程・製品） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | マネジメントレビュー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 審査 | 予備審査向け事前文書提出 ※ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 予備審査 ※ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第一段階審査向け事前文書提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第一段階審査／ステージ1／St1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第二段階審査向け事前文書提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第二段階審査／ステージ2／St2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 是正処置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 是正確認・フォローアップ審査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 是正完了 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 登録証発行 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

日程や料金など詳しくは
リンクをクリック！

IATF16949関連トレーニングサービス



大好評

受付中

自動車産業向けQMSプロフェッショナル監査員育成研修 詳細裏面をご覧ください

■動画4種/講義6日間 税別 180,000 円/1 名

※各講座単体での参加も承っております。

※2023年5月スタートのコースもオンラインライブでのリモート開催を予定

- ✓ QMS内部監査員/工程監査員/二者監査員で、審査登録機関の主任審査員と同等の力量を目指す方
- ✓ 上記の各監査員への指導者
- ✓ 自動車産業 QMS審査員を目指す方
- ✓ マネジメントシステム構築中のご担当者

こんな人達にお勧め

本気で品質向上

プロ監査員目指すなら

- 全カリキュラム修了時に身につく能力:
 - ・プロ監査員として監査で被監査プロセスの有効さ、効率双方の観点からパフォーマンスが評価でき、プロセス改善に資する監査所見、監査結論の提示が可能になる
 - ・所属組織の監査員へ以下の指導が可能になる。
 - － 基準 (QMS規格/規定類/製品に関連する法規制) 適合性監査のみならず、有効さを志向した監査を実施する。
 - － 被監査プロセスに潜在するリスクを特定する。
 - － 品質管理に用いられる各種ツールが理解でき、監査時にデータの特性や傾向に基づく予防の提案ができる。

SGS Academy Japan - カレンダー検索

オンデマンド ▶▶

スマホでも勉強できちゃう

SGS ジャパン株式会社のWEBセミナー一覧 | WEBセミナー Deliveru

内部監査員研修 コース

IATF16949内部監査員コース 2日

SGS Academy Japan - IATF16949:2016 内部監査員研修

オンデマンドは研修録画を一定期間何度でも視聴できるコースです！

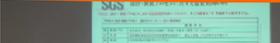
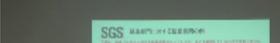
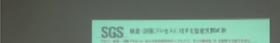
- ・ IATF16949:2016&ISO9001:2015差分解説コース
- ・ IATF16949:2016規格解釈研修
- ・ APQPコアツールセミナー
- ・ PPAPコアツールセミナー
- ・ SPCコアツールセミナー (演習付)
- ・ MSAコアツールセミナー (演習付)
- ・ AIAG_VDA_FMEAハンドブック解説研修



オンデマンドは充実のラインナップ！

IATF16949【プロセス別】内部監査質問事例集

内部監査員研修は修了したが、監査経験がない、または全くない方、及び現場監査時の質問手法に不安のある方に最適のコースです。IATF16949主任審査員が、「設計・開発」、「購買」、「製造」、「検査・試験」プロセスに対する内部監査質問例を要求事項に紐づけてご案内します。内部監査パフォーマンスが劇的に変わります！

| | |
|---|---|
|  | <p>アーカイブ Deliveru</p> <p>SGS ジャパン株式会社</p> <p>IATF16949【購買プロセス】に対する内部監査質問事例集 (27分間：修了証書付)</p> <p>36分 視聴期間：15日 (30日以内に視聴開始)</p> <p>IATF16949内部監査員研修は修了したが、監査経験がない／又は全くない方、及び現場監査時の質問手法にご不安のある方に最適の…</p> <p>プレビューする</p> <p>初～中級者向け</p> <p>5,500 円(税込) > ログインして注文</p> |
|  | <p>アーカイブ Deliveru</p> <p>SGS ジャパン株式会社</p> <p>IATF16949【設計・開発プロセス】に対する内部監査質問事例集 (35分間：修了証書付)</p> <p>34分 視聴期間：15日 (30日以内に視聴開始)</p> <p>IATF16949内部監査員研修は修了したが、監査経験がない／又は全くない方、及び現場監査時の質問手法にご不安のある方に最適の…</p> <p>プレビューする</p> <p>初～中級者向け</p> <p>5,500 円(税込) > ログインして注文</p> |
|  | <p>アーカイブ Deliveru</p> <p>SGS ジャパン株式会社</p> <p>IATF16949【製造プロセス】に対する内部監査質問事例集 (34分間：修了証書付)</p> <p>18分 視聴期間：15日 (30日以内に視聴開始)</p> <p>IATF16949内部監査員研修は修了したが、監査経験がない／又は全くない方、及び現場監査時の質問手法にご不安のある方に最適の…</p> <p>プレビューする</p> <p>初～中級者向け</p> <p>5,500 円(税込) > ログインして注文</p> |
|  | <p>アーカイブ Deliveru</p> <p>SGS ジャパン株式会社</p> <p>IATF16949【検査・試験プロセス】に対する内部監査質問事例集 (18分間：修了証書付)</p> <p>1時間41分 視聴期間：15日 (30日以内に視聴開始)</p> <p>IATF16949内部監査員研修は修了したが、監査経験がない／又は全くない方、及び現場監査時の質問手法にご不安のある方に最適の…</p> <p>プレビューする</p> <p>初～中級者向け</p> <p>16,500 円(税込) > ログインして注文</p> |

詳しくはリンクご参照→ <https://shop.deliveru.jp/sgsjp/?page=3>

 [SGS Academy Japan - IATF16949:2016 内部監査員研修](#)

内部監査員研修 コース

IATF16949内部監査員コース 2日

次回は、7/3-4(横浜)・7/31-8/1(Web)

IATF16949内部監査実践研修

－設計・開発プロセス／購買プロセス編

設計・開発及び購買プロセスを対象に講義と演習の実施により、プロセスアプローチ監査手法及び各プロセスに関連するIATF16949規格要求事項の検証を含む監査質問技法を身に付けていただきます。

IATF16949内部監査実践研修

－製造プロセス／検査・試験プロセス編

製造及び検査・試験プロセスを対象に講義と演習の実施により、プロセスアプローチ監査手法及び各プロセスに関連するIATF16949規格要求事項の検証を含む監査質問技法を身に付けていただきます。

内部監査員コース参加の人に無料視聴サービスキャンペーン中!!

【有償】7/18開催 実務に直結！APQP 第3版解説研修 ～改訂ポイントと活用方法を理解する～

2025年7月18日(金) 10:00～17:00

2024年に改訂された「APQP（先行製品品質計画）第3版」は、製品開発と品質保証の連携をより強化する内容へと進化しました。

本研修では、APQP第3版の構成・改訂ポイントを中心に、コントロールプランやPPAPとの関連性にも触れながら、実務での活用方法をわかりやすく解説します。対面形式ならではの質疑応答で、理解を深めましょう。



講義内容

講義：APQP第3版の全体構成と改訂の背景／各フェーズのポイントと実務での留意点／コントロールプラン含む他コアツールとの効果的な運用へのヒント／IATF16949要求事項との整合性と効果的活用のヒント／

試験：理解度試験

審査機関を登録移転したいと考える理由

- ✓ コスト(価格?工数?他)
- ✓ 他のISO等の認証機関と同じにしたい
- ✓ 海外拠点の認証機関も統一したい
- ✓ 認証機関の営業や事務所の対応が悪い
- ✓ 何を訊いても「それはコンサルになるから」と、解らないことが多い
- ✓ 審査方針が自社にあっていないと感じる
- ✓ 等々……



Information Security In Automotive Industry

TISAX® - Trusted Information Security Assessment
Exchange



TISAXとは何か？（Trusted Information Security Assessment Exchangeの略）

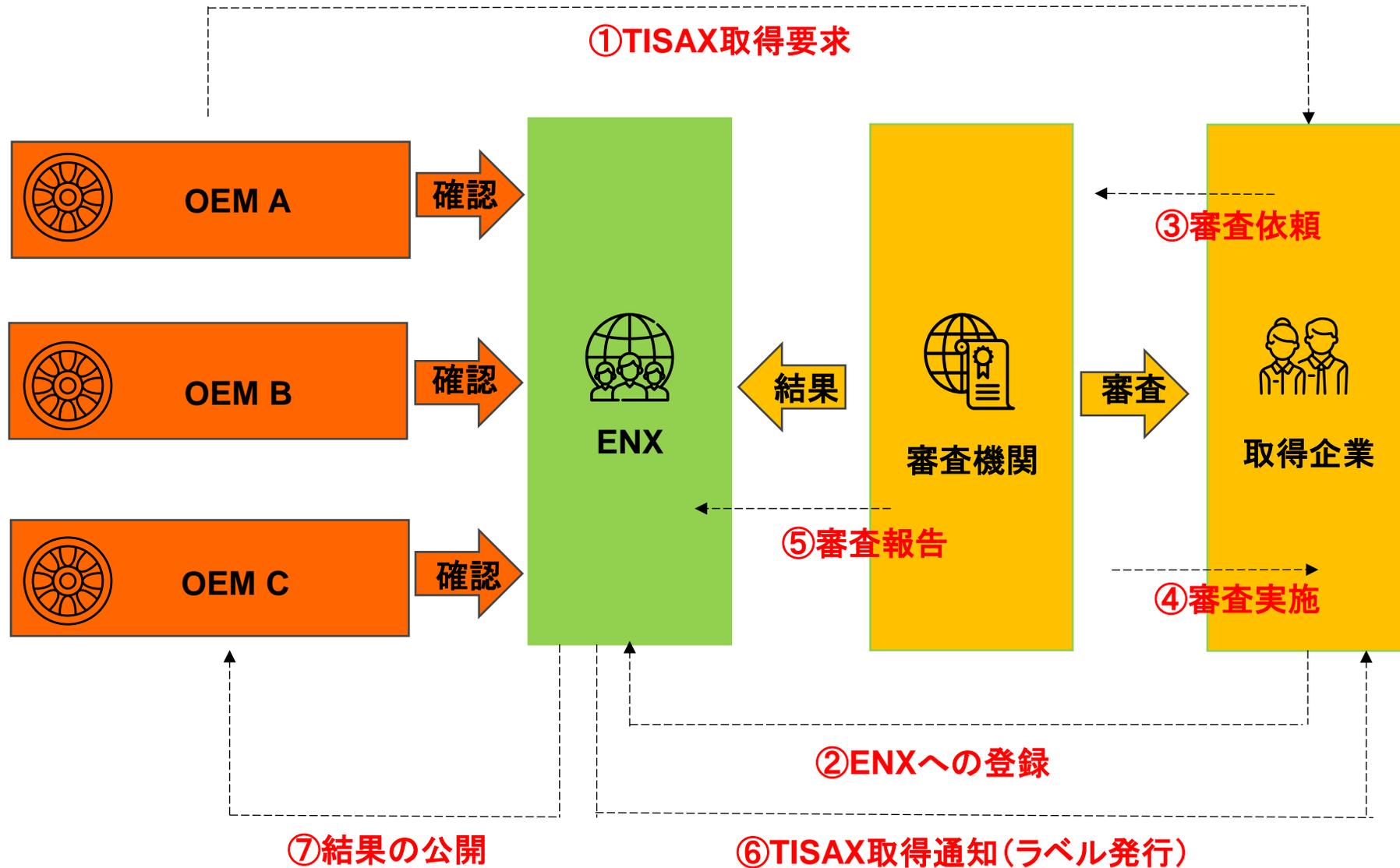
TISAX®は、ドイツ自動車工業会 (VDA) が開発した ISO/IEC 27001 に基づく **情報セキュリティアセスメント** です。アセスメントの内容としては基本的に **自動車メーカーの情報をどのように外部に漏洩しない仕組み** になっているかの質問で構成されています。

主に欧州の自動車メーカーからサプライヤーに対してTISAXの取得要求がされます。

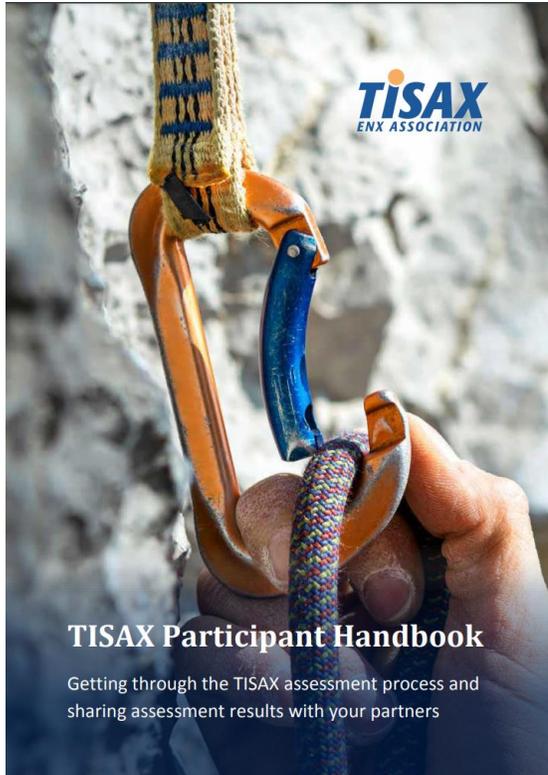
またISO/IEC 27001に基づいておりますが、**ISO認証ではございません。**

TISAX取得企業は、審査結果をTISAXプラットフォーム上（ENX）に公開する事が出来、自動車メーカーがこのプラットフォームを参照してサプライヤーの選定を検討する事が出来ます。

TISAXの構図



TISAXの取得要求があったらまずハンドブックの理解



- ENX

<https://www.enx.com/en-US/TISAX/>

- ハンドブック

<https://www.enx.com/handbook/tisax-participant-handbook.html>

※ハンドブックはTISAXの規格書です。

審査依頼をする準備 (ENXへの登録)

TISAX Scope Excerpt S3ZY5V
Participant: ACME Lt. (PXLNC58)



| Scope: ACME Ltd. | | S3ZY5V | |
|--|-------------------------------------|----------------------|-----------|
| Standard Scope 1.0 The Scope comprises all processes and involved resources at the sites defined below that are subject to security requirements from partners in the automotive industry. Involved processes and resources include collection of information, storage of information and processing of information. | | | |
| Assessment Objectives | | AL | Locations |
| Information with Very High Protection Needs | | 3 | 1 |
| Maturity of ISMS | Certified on | Certified in | |
| | | | |
| Complexity of ISMS | Justification (only if simple ISMS) | | |
| | | | |
| Use of Consulting Firm for ISMS | Name of Consulting Firm | | |
| | | | |
| Earliest Kickoff-Meeting | Labels needed until | External Requirement | |
| | | | |

| Location: Frankfurt | | |
|--|-------------------------------|--|
| Company Name and Address | Location-ID | DUNS |
| ACME Ltd. Bockenheimer Landstr. 97-99 60325 Frankfurt Germany | L5WDZR | 812533185 |
| | Type | |
| | Building(s) rented by company | |
| | Passive Site Protection | Employees |
| | Yes | Overall: 11-100 |
| | Industry | IT: 1-10 |
| | Telecommunication Services; | IT-Security: Part Time Location Security: 0 |

まずENXへの登録が必要になります。
「どのような内容で取得するのか？」を当プラットフォームで登録をしますが、項目は基本的に自動車メーカーから指定をされます。
※上記登録の際に登録料がかかります。

- Scope (適用範囲)
- 拠点 (どこの拠点で取るか)
- AL (審査手法)
- ラベル (どの項目でTISAXを取るか)

※オレンジの箇所は次ページで詳細説明



アセスメントレベルについて

どのような評価なのか？

- 結果は0～5点（ただしTISAX内の最高点は3点）

0～5の定義はSPICEと同義

- アセスメントレベル ALの種類

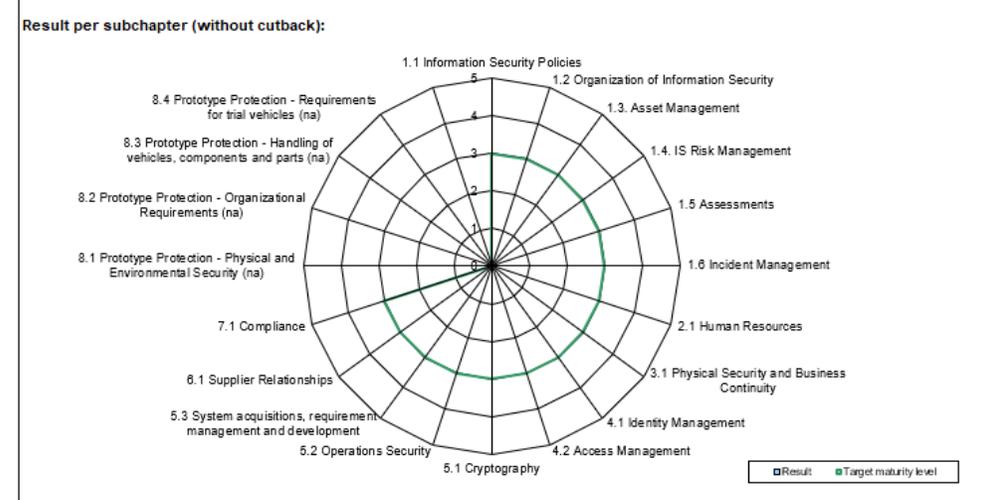
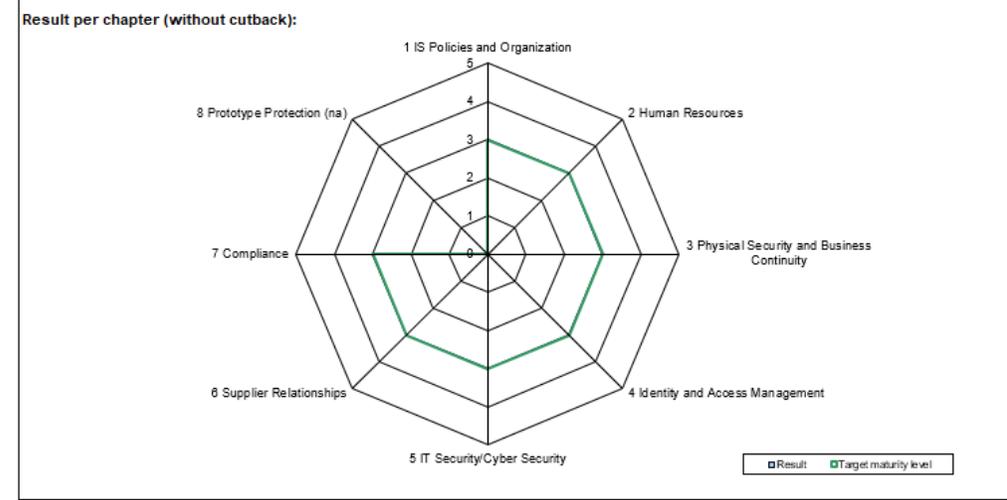
- レベル 2 AL2

妥当性の確認とリモートインタビューによる文書審査
(訪問審査も可能)

- レベル 3 AL3

妥当性確認のための書類審査と現地審査

| | |
|---|---------------------|
| Company: | 0 |
| Location: | 0 |
| Date: | 2020/1/1 |
| Result with cutback to target maturity level: | Maximum score: 3.00 |



ラベルによるアセスメントレベルの違いについて

| No. | アセスメント目標 | 略称 (ラベル名称) | アセスメントレベル AL (カッコ内、達成すべきAL) |
|---------------|--|---------------------------|--------------------------------|
| 1. | 保護ニーズの高い情報 | Info high | AL2 |
| 2. | 保護ニーズが非常に高い情報 | Info very high | AL3 |
| 3. | 機密性の観点から、保護ニーズの高い情報の取り扱い（機密情報へのアクセス） | Confidential | AL2 |
| 4. | 機密性の観点から、保護ニーズの非常に高い情報の取り扱い（厳格な機密情報へのアクセス） | Strictly Confidential | AL3 |
| 5. | 用性の観点から、保護ニーズの高い情報の取り扱い (情報の可用性が高い) | High availability | AL2 |
| 6. | 可用性の観点から、保護ニーズの非常に高い情報の取り扱い (情報の可用性が非常に高い) | Very high availability | AL3 |
| 7. | プロトタイプ部品・コンポーネントの保護 | Proto parts | AL3 |
| 8. | プロトタイプ車両の保護 | Proto vehicles | AL3 |
| 9. | テスト車両の取り扱い | Test vehicles | AL3 |
| 10. | イベントおよび動画・写真撮影時のプロトタイプの保護 | Proto events | AL3 |
| 11. | EU一般データ保護規則（GDPR）第28条（「処理者」）に基づくデータ保護 | Data | AL2 |
| 12. | EU一般データ保護規則（GDPR）第9条に規定された 特別区分の個人データに関する、同第28条（「処理者」）に従ったデータの保護 | Special data | AL3 |

審査の流れ（AL2、AL3 初回審査）



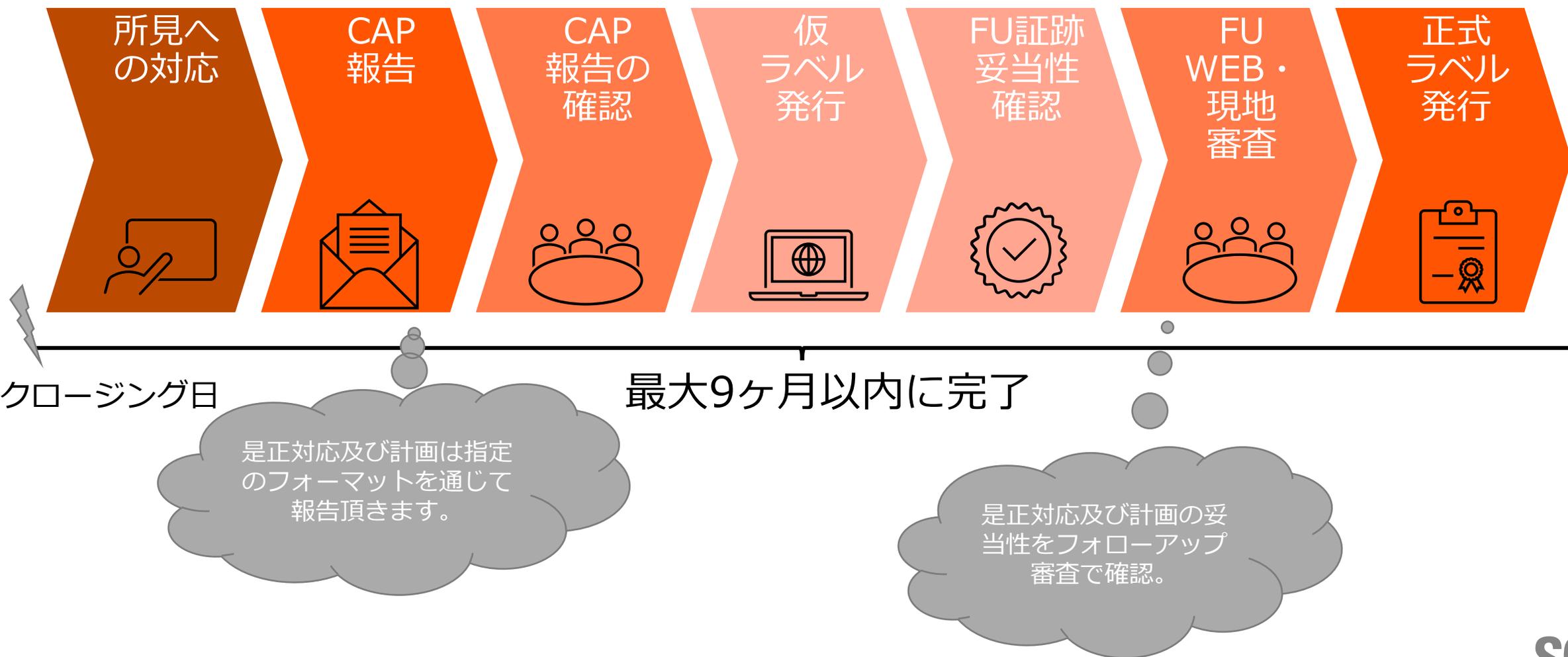
通常の審査では
審査日がクローズ
報告日です

クロージング日

※ENXへの登録は

- Scope
 - Assessment Objectiveが必要です。
(上記登録の際に登録料もかかります)
- 弊社営業が入力のお手伝いに伺うことも可能です。

審査の流れ（AL2 CAP審査＋フォローアップFU審査）



情報セキュリティの要求事項 (SGS教育資料より抜粋)

(7 Domains / 41 Control Questions)

Domain 1

ISの方針と組織

IT部関連

12

controls

Domain 2

人的資源

4

controls

Domain 3

物理的セキュリティと
事業継続性

4

controls

Domain 4

IDとアクセス管理

IT部関連

4

controls

Domain 5

ITセキュリティ/サイ
バーセキュリティ

IT部関連

13

controls

Domain 6

供給者関係

2

controls

Domain 7

コンプライアンス

2

controls

Total 41
Control
Questions

まとめ

- TISAXはアセスメント**結果を交換**する仕組み。
- スコープはかなり広くなる可能性が高い。
- ISMSが前提、ただし取得は必須ではない。
- 外部審査開始の前提は自己アセス結果が必須のため、ハンドブック、ISAの理解が必要。
- 欧州の自動車メーカーから取得依頼が来ていないか社内での確認が必要。

TISAX審査の国内実績（セグメント別）

- ステアリング、軸受け（トヨタグループ）
- プラグ、センサー
- モーター
- ギア・鍛造
- 電信・電話
- 無線通信
- ブレーキ
- シート・内装部品
- ナビ地図
- タイヤ
- 空調コンプレッサー
- 鍵、ロック
- 自動車用機械工具
- 素材



Business Assurance

ENABLE SUSTAINABLE GROWTH BY ENHANCING
KNOWLEDGE, SKILLS AND PROCESSES

ISO/IEC 42001:2023

ARTIFICIAL INTELLIGENCE MANAGEMENT SYSTEM (AIMS)

Why is AIMS needed? Why was it started?

- AIに関する規制やISO規格が普及していないため、**企業はガイダンスを求めている**。
- AIプロバイダーや一般企業間で、AIに関連する「何か」の認証を受けるための競争が行われる。
- AIシステムに対する**保証／信頼**に対する顧客の要求
- AIが普及するにつれ、**強固なAIガバナンスの枠組み**が必要となり、国際標準化コミュニティはISO/IEC 42001を策定した。

Managing AI systems using ISO

ISO/IEC 42001は、AIマネジメントシステム(AIMS)を組織の既存の構造と統合することに重点を置いている。

MSの構成要素を把握するために、規格本体は比較的一般的であり、AIの視点を得るために、規格の附属書や他のISO/IEC文書を参照する。

Note: マネジメントシステムとは、「方針と目的、および目的を達成するためのプロセスを確立するための、組織内の相互に関連または相互作用する要素」と定義される。

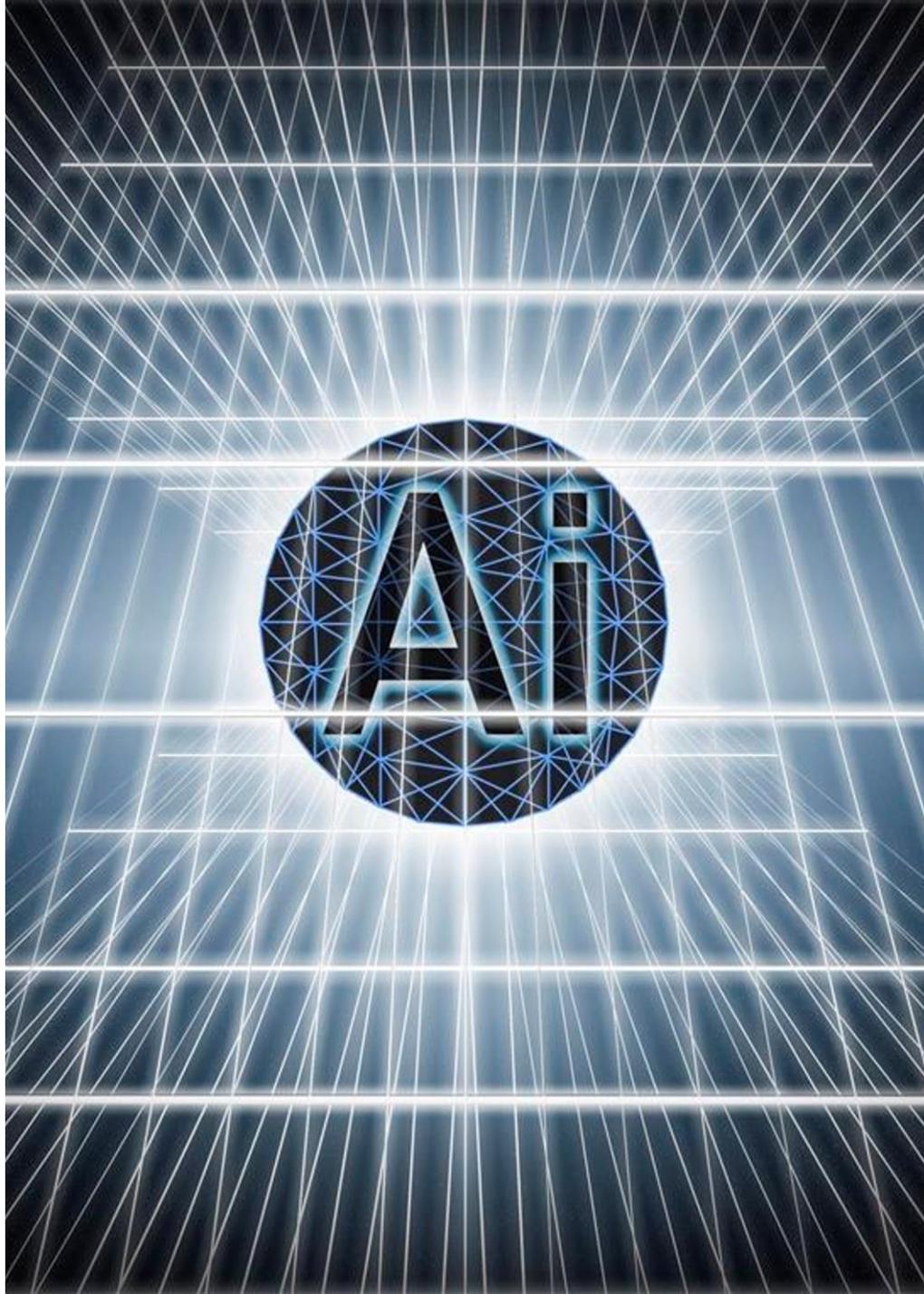
AI Management System

What is ISO/IEC 42001 about?

AIシステムの普及に伴い、ISO/IEC 42001は、AI保証エコシステムの一部としてAI製品を開発できるよう、認証可能なAIマネジメントシステムの枠組みを提供する。最終的な目標は、**企業と社会がAIから最大の利益を得るのを支援し、システムが責任を持って開発されていることを関係者に安心させることである。**

What does ISO/IEC 42001 cover?

ISO/IEC42001は、AIマネジメントシステムの確立、実施、維持及び継続的改善に関する要求事項を規定し、指針を与えている。**ISO/IEC 42001は、組織が、規制上の要求事項や利害関係者の義務や期待に応えつつ、その目的を追求するために、責任を持ってAIシステムを開発又は使用することを支援することができる。**



ISO/IEC 42001 Structure

<本文>

0. 序文

1. 適用範囲

2. 引用規格

3. 用語及び定義

4. 組織の状況

4.1 組織及びその状況を理解する

4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

4.3 AIマネジメントシステムの適用範囲の決定

4.4 AIマネジメントシステム

5. リーダーシップ

5.1 リーダーシップとコミットメント

5.2 AIポリシー

5.3 役割、責任及び権限

6. 計画策定

6.1 リスク及び機会への取り組み

6.2 AI管理目的及びそれを達成するための計画策定

6.3 変更の計画策定

7. 支援

7.1 資源

<本文>

7.3 認識

7.4 コミュニケーション

7.5 文書化した情報

8. 運用

8.1 運用の計画策定及び管理

8.2 AIリスクの評価

8.3 AIリスク対応

8.4 AIシステムの影響評価

9. パフォーマンス評価

9.1 監視、測定、分析、評価

9.2 内部監査

9.3 マネジメントレビュー

10. 改善

10.1 継続的改善

10.2 不適合及び是正措置

Annex A (規定) 管理目的及び管理策

Annex B (規定) AI管理策の実施の手引き

Annex C (参考) AI関連の潜在的な組織的管理目的及びリスク源

Annex D (参考) ドメイン又はセクターを超えたAIマネジメントシステムの

ISO/IEC 42001 – Artificial intelligence management system

Why is ISO/IEC 42001 important?

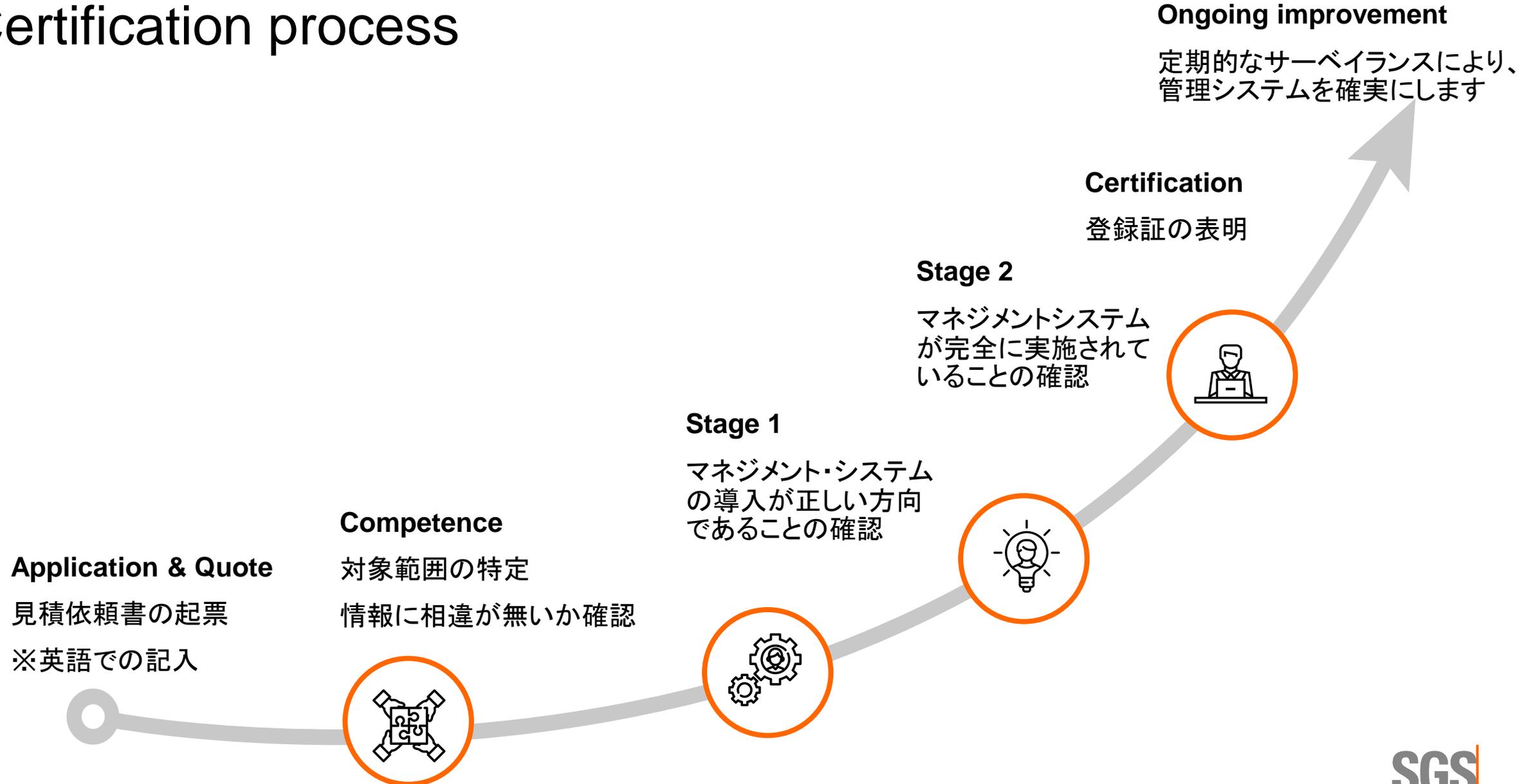
- AIは多くの産業、製品、サービスにおいて急速に発展し、採用されている。間違いなく、AIは社会と私たちの生活に影響を及ぼしており、今後もさらに影響を及ぼしていくと予測されている。
- この進歩や影響力の大きさゆえに、信頼、倫理、社会的懸念に対処しなければならない。AIは信頼でき、公正で透明でなければならない。

Who is it for?

- AIを安全に導入したいと考えているあらゆる組織が対象。
- 規模、提供サービスに関係なく、AIシステムを活用した製品やサービスを提供または利用するあらゆる組織に適用される。

AIシステムは複雑であるため、AIMSの導入には複合的なアプローチが必要となる。案件によっては、法務、プライバシー、オペレーション、マーケティング、営業、研究開発、人事、IT、リスク・マネジャーなどを対象範囲に含める必要がある。

Certification process



Role definition for AIMS

- **AI生産者・開発者**

- ・ AIの基礎技術の研究開発や設計・実装を行う組織
- ・ AIシステムを開発する事業者

- **AIプロバイダー（提供者）**

- ・ AIシステムやAIを活用したサービスを提供する組織
- ・ AIシステムをアプリケーションや製品もしくは既存のシステムやビジネスプロセス等に組み込んだサービスとしてAI利用者等に提供する事業者

- **AIカスタマ（顧客）**

- ・ AIプロバイダが提供するAIシステムを利用する組織
- ・ AIシステム又はAIサービスを利用する事業者

China's first ISO/IEC 42001 certificate

クライアントの課題:

Allにおけるリーダーシップ、強い社会的責任感、ベストプラクティス、持続可能で効果的な運営を確保するための長期的な仕組みを実証すること。

OrionStar Roboticsのコメント

SGSとの協力は、弊社の能力を実証し、強力な企業イメージを確立し、顧客満足度を高めるために不可欠です。SGSは非常にプロフェッショナルで、効率的かつ責任感があります。SGSとの協力は非常に快適でした。



Japan's first ISO/IEC 42001 certificate

株式会社Godot 共同創業者 兼 CTO 鈴井豪様のコメント

Godot は「社会的技術 (Social Technology)」、「透明性 (Transparency)」、「包摂性 (Inclusivity)」をバリューとして掲げ、人々や社会、そして環境に悪影響を及ぼすことなく、Wellbeing向上に寄与する技術開発に取り組んでまいりました。

このたびのISO/IEC 42001認証取得は、こうした理念のもとに構築された 社内のAIシステム開発・運用体制、およびマネジメントの在り方が、国際規格に準拠していることを第三者機関によって証明されたものです。

Godotでは、AI技術の社会実装において、透明性・安全性・説明可能性といった価値を重要視しています。SGSジャパン様の審査を通じて、社員一人ひとりの日々の取り組みが、国際基準のもとで認められた今回の認証取得を、私たちは大きな節目と捉えています。

今後も、お客様に安心して弊社のAIソリューションをご活用いただけるよう、AIMSに基づいた体制の継続的な改善と強化を推進してまいります。



Up coming Seminar

- 【無料】6/20開催 AIマネジメントシステム（ISO42001）

動向セミナー〈認証取得企業を迎えて〉



【無料】6/20開催 AIマネジメントシステム(ISO42001)動向セミナー〈認証取得企業を迎えて〉 | SGSジャパン株式会社

A monarch butterfly with vibrant orange wings and black markings is perched on a green plant with small white flowers. The background is a soft, out-of-focus green.

SUSTAINABILITY

The planet needs it
Our customers want it
We have the solutions
IMPACT NOW

SGS サステナビリティソリューション

国内外法規制

カーボンニュートラル

- GHG排出量削減
- 排出権取引制度

ネイチャーポジティブ/生態系保全

- 30by30
- EUDR(欧州森林破壊規則)
- 有害化学物質の管理強化

サーキュラーエコノミー

- ESPR(欧州エコデザイン規則)
- プラスチックの削減/リサイクル

情報開示/Due Diligence

- SSBJ (日本)、CSRD(欧州)
- CSDDD

SGS サステナビリティソリューションサービス

Climate/気候変動



GHG排出量検証
排出権取引(GXリーグ)検証
LCA支援
CFP算定支援・検証

Nature/ネイチャー



森林/RSPO認証
EUDR規制対応
有害化学物質の試験・分析
PFAS試験

Circularity/サーキュラー



ISCC認証
GRS認証
リサイクルプラスチック分析
ISO 14021検証

ESG Assurance/アシアランス



Social監査(SMETA監査等)
人権/環境デューデリジェンス
環境/社会性データ検証
EDGE認証
EHS遵法監査
サステナビリティ情報開示支援

ステークホルダー
報告・検証要求



行政機関
投資家
取引先/親会社
地域社会



Dow Jones
Sustainability World
Index

企業のバリューチェーン

Design

CFP/LCA

Raw Material

Social監査、人権/環境DD

Manufacturing

ISO14001、GHG排出量検証

Product Use

ISO14021
各種製品ラベリング

End of Life

リサイクルプラスチック分析

SGS

EUバッテリー規則 Regulation (EU) 2023/1542

EUバッテリー規則:

- 既存のバッテリー指令を上書きする規則
- 産業政策である欧州グリーンディールやサーキュラーエコノミーアクションプランのコンセプトを反映。
- 2023年7月28日に公布後、**バッテリー指令は2025年8月18日をもって廃止。**
- CEマーキング対象となったため、適合性評価プロセスが追加されている。
- 全ての電池に関わり、原料・生産から回収・再利用・リサイクルまで、**電池のライフサイクル全体**を対象。
- **電池を組み込む機器に対する要件**も追加されている。
- 新たにCFP・サプライチェーンデューディリジェンス・バッテリーパスポートが採用されるが、タイムスケジュール通りに運用が開始されるかどうかは不透明。

履歴:

- 1次ドラフト: 2020年12月
- 最新ドラフト: 2023年1月
- 官報公布: 2023年7月

主要要求事項:

1. 有害化学物質の管理

2. カーボンフットプリント

3. リサイクル率 (希少金属)

4. 信頼性・安全性要求事項

5. 表示とQRコード (バッテリーパスポート)

6. サプライチェーンデューディリジェンス

- 環境インパクト
- 人権

7. Notified Body (NB)による適合評価

- 技術文書
- 適合宣言書
- CE マーキング

直近の動向

EUバッテリー規則のデューディリジェンスのスキームのガイドラインは2025年2月に公表予定でしたが、2025年第3四半期の公表に変更
RMIは、昨年公開したESG基準の改訂し、2025年第2四半期に新たな基準を試験的に導入すると発表
ただし、8月の適用開始の時期についてはアナウンスが無い状況・・・

| 2025年 | | | | | | | | | | | |
|------------------------|----------|--|----|----|----|----|------|----|-----|-----|-----|
| | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| (一部検証スキーム公表) By RMI | | | | | | | | | | | |
| DDガイドライン公表 | ガイドライン公表 |  | | | | | | | | | |
| 適用開始 (情報開示) | | | | | | | 適用開始 | | | | |

2025/5/21 欧州委員会より適応時期について2年延期のアナウンスが発表
DDガイドライン公表は2026年を予定
DD実施頻度:毎年から3年毎へ

EUバッテリー規則/デューディリジェンス要求項目

1. ミネラル（鋳物）サプライチェーンマネジメント：責任ある調達
2. 環境と人権の取り組みの検証
3. グリーバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）の構築



デューディリジェンスの6ステップ

- DDポリシー策定
- ポリシーに基づいたマネジメントシステムの確立

- サプライチェーンマッピング
- リスクの特定
- 監査計画と監査実施

影響にどのように
対処したかを伝える

- DD活動についての情報開示
- ステイクホルダーダイアログ
(企業とステイクホルダー間の対話)



企業の事業, サプライチェーン
およびビジネス上の関係における
負の影響を特定し, 評価する



6 適切な場合
是正措置を行う,
または是正のために
協力する

実施状況および
結果を追跡調査する

- 追跡監査の実施
(問題項目の改善確認)

負の影響を停止,
防止および軽減する

- 監査実施後の課題
と問題の確認
- その問題軽減と是正

グリーンバンスメカニズムによる労働者苦情処理と救済



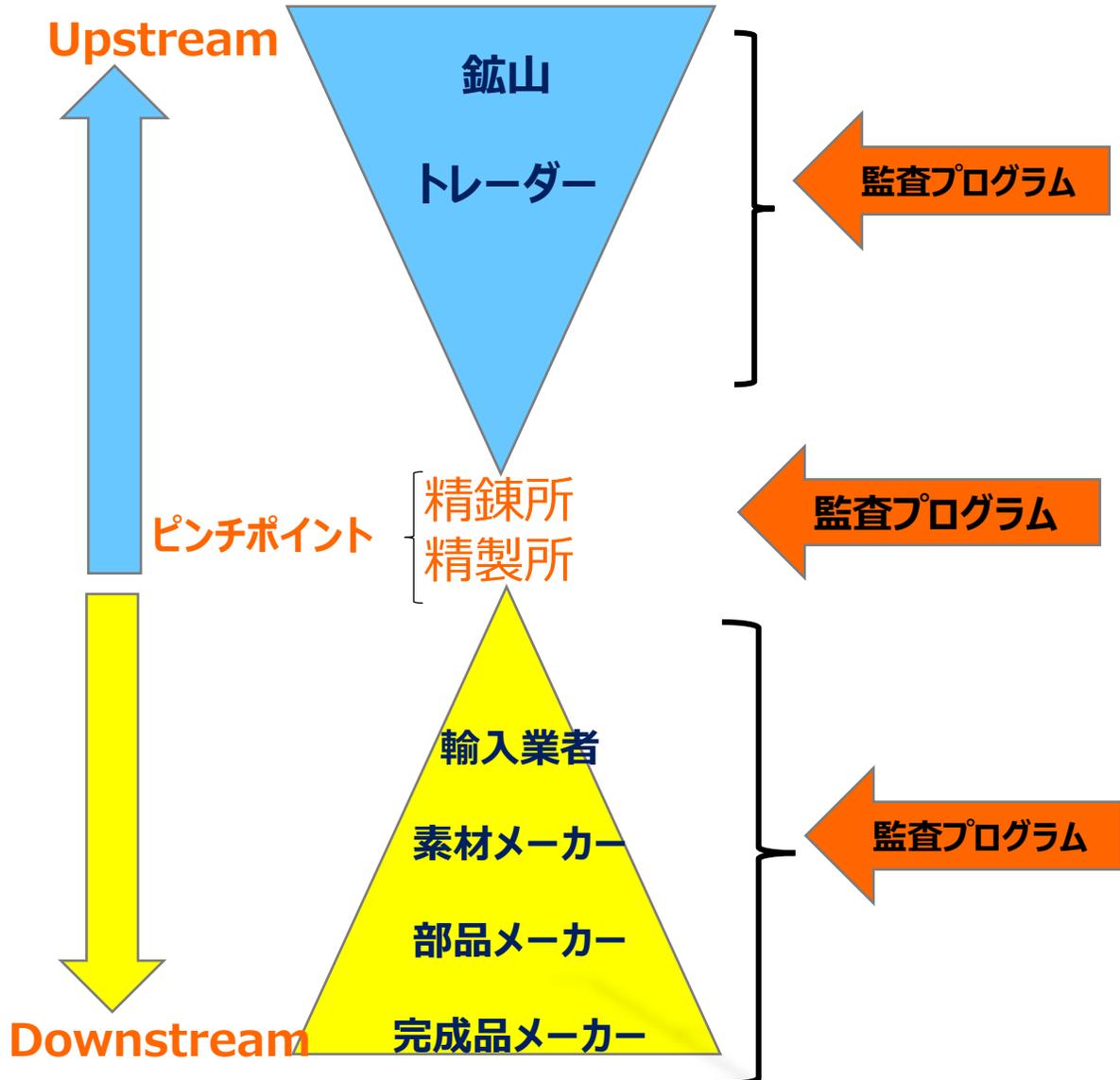
EUバッテリー規則/デューディリジェンス要求項目

1. ミネラル（鉱物）サプライチェーンマネジメント：責任ある調達

- 対象鉱物： コバルト（cobalt）、天然黒鉛（natural graphite）、リチウム（lithium）、ニッケル（nickel）
- 「紛争の影響を受けている高リスク地域」からの調達しない方針と実行と管理
Conflict Affected High Risk Areas
- サプライチェーンの**上流関係者を特定し**、トレーサビリティシステムを含む管理と透明性のシステムを確立し、運用すること



鉱物の調達管理（ミネラルサプライチェーンマネジメント）を検証



Upstream（鉱山～精錬所、精製所）

- Upstream Assurance Mechanisms :
iTSCi , Better Mining（鉱山での検証プログラム）

RMAP (Responsible Mineral Assurance Process)

- この監査では、製錬所、精製所の調達管理プロセスを検証

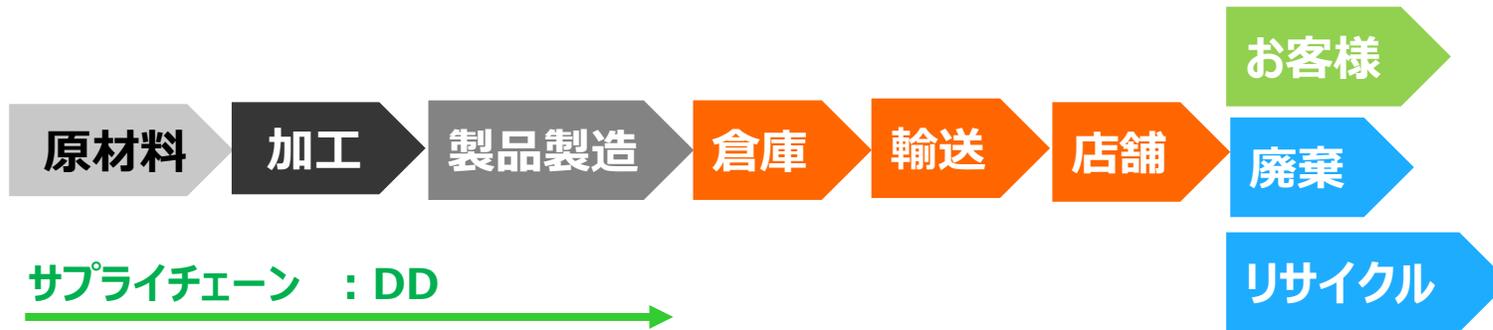
Downstream（精錬所、精製所～バイヤー）

- DAP (Downstream Assessment Program)
この監査では加工業者、製造業者などが対象となる調達管理プロセスを検証

EUバッテリー規則/デューデリジエンス要求項目

2. 環境と人権の取り組みの検証：

- サプライチェーンでのOECDに基づく環境と人権デューデリジエンス実施



EUバッテリー規則でのリスクカテゴリー (EU バッテリー規則附属書 X)

環境的リスクのカテゴリー：

- (a) 環境、気候、人間の健康への直接的、誘発的、間接的、累積的影響を考慮する
 - (i) 温室効果ガス排出などの大気汚染を含む
 - (ii) 水（海底と海洋環境を含み、水質汚染、水利用、水量（洪水や干ばつ）、水へのアクセス
 - (iii) 土壌汚染、土壌浸食、土地利用、土地の劣化
 - (iv) 生息地、野生生物、動植物、生態系（生態系サービスを含む）へのダメージを含む生物多様性、
 - (v) 危険物質、
 - (vi) 騒音と振動、
 - (vii) 工場の安全性、
 - (viii) エネルギー使用、
 - (ix) 廃棄物と残留物

- RBA VAP環境項目**
- 環境許可と報告
 - 汚染防止と資源保護
 - 有害物質
 - 固形廃棄物
 - 大気への排出
 - 資材の制限
 - 水の管理
 - エネルギー消費および温室効果ガスの排出

社会的・人権リスクのカテゴリー：

- (b) 人権、労働権、労使関係など
 - (i) 労働安全衛生
 - (ii) (ii) 児童労働
 - (iii) (iii) 強制労働
 - (iv) (iv) 差別
 - (v) (v) 労働組合の自由
- (c) 先住民族の生活を含むコミュニティ生活

**RBAのLabor（労務）、マネジメントシステム項目をきちんと理解し、実行することが重要
人権方針の策定は特に重要**

黄色ハイライト項目はRBAのVAP監査では、当該リスクカテゴリーをカバーできない項目

EUバッテリー規則/デューディリジェンス要求項目

3. グリーバンスメカニズム（苦情処理メカニズム）の構築

- 労働者救済のためのメカニズム



指導原則に基づく苦情処理メカニズムの8つの必要要素

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」 原則31

| | | | |
|-----------|---|---------------|---|
| ① 正当性 | 信頼されるための 公正なプロセスを確保する (責任の所在) | ⑤ 透明性 | 利用者に対して進捗状況の説明およびどのように苦情が処理されたかの情報公開 |
| ② アクセス可能性 | 人権侵害を受ける人々が アクセスできる (言語, 識字, 費用, 報復の恐れ) | ⑥ 権利適合性 | 救済方法が国際的に認められた人権の基準に沿っている (人権概念の統合) |
| ③ 予測可能性 | 利用者にとって手続きや 対応プロセスが明確である (情報提供, 啓発) | ⑦ 継続的な学習源 | 既存の苦情を再発防止に 活用できる (方針, 手続, 慣行) |
| ④ 公平性 | 当事者にとって公平である (知識, 費用, 手続き) | ⑧ エンゲージメントと対話 | 苦情に対処する手段は 対話を重視する (裁定には第三者メカニズム) |

出典：UNGP

ご紹介

【6月13日（金） 13:00～17:00 開催】

EUバッテリー規則におけるデューディリジェンスパートの条文解釈と実務対応研修

EUバッテリー規則は調達・製造の現場における、デューディリジェンスへの取り組みを義務化しています。ガイドラインは未発表ですが、法的には発効しているため、今まさに企業は対応への正念場を迎えます。本研修はEUバッテリー規則で求められるデューディリジェンスの対応への基礎知識を半日でお伝えします。

研修概要:

- EU指令動向（オムニバス法案とEU指令や規則）
- EUバッテリー規則で要求されるデューディリジェンスパートの条文解釈・解説
 - 条文を読むだけではわかりにくい求められることは何かを理解し、実務レベルで企業は何をすべきかを学びます
 - 夫々の立場においてサプライチェーン全体で果たすべき責務は何か？について学びます
- 規則要求事項に基づいた必要な実務の全体像を理解していただきます（例；DDポリシーの策定、DDポリシーに基づいたマネジメントシステムの構築、サプライヤーエンゲージメント等）
- 想定される第三者検証について
 - ガイドライン未公表ながら、条文要求項目とこれまでの他業界のDD展開やサプライチェーンリスクベース対応の知見からお話します
- デューディリジェンスはリスク評価と是正だけではありません以下の事も含まれます
 - サプライチェーン全体のリスク管理
 - トレーサビリティのしくみを確立：鉱山～加工所～精錬所～最終製造工場
 - 対象原材料の含有量、調達先情報の報告
 - 経済事業者だけが第三者検証を受けるわけではありませんサプライヤーも同様です
 - グリーバンスメカニズムをサプライチェーン全体に構築することが必要です
 - 経済事業者は、自社の第三者検証報告書以外にもサプライヤーの第三者検証報告書も入手し、それらを含めた年次DD報告書開示が必要
 - その他

電池関連のSGSサービス

| 項目 | サービス名 | 詳細 |
|-------|---------------------|---|
| CFP | CFP算定支援 | 電池規則および参照文書に基づくCFP算定の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・算定トレーニング ・算定アドバイザリー |
| | CFP検証 | <ul style="list-style-type: none"> ・CFP算定結果に対するGAP分析 |
| DD | 概要セミナー・個別相談 | 電池規則にて開示対象となるデューデリジェンス項目の概要説明と対応方法の個別相談 |
| | DD対応支援・アドバイザリー | <ul style="list-style-type: none"> ・お客様企業内の関連部門を対象にしたDD対応を支援 ・社内監査やサプライヤー監査および支援 ・社内体制の立ち上げ支援 |
| 化学分析 | 含有化学物質分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・規制対象物質の含有試験 ※電池セル・電池パック・BMS関連部品を対象 |
| | REACH制限物質リスクアセスメント | <ul style="list-style-type: none"> ・REACH制限物質（Annex XVII）について、化学物質情報および材料情報からハイリスク物質の判定などリスク評価を支援 |
| 製品試験 | 安全性・性能試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・IEC 62133など電池の安全性規格に基づく試験 ・IEC 61690など性能規格に基づく試験 ・自動車メーカー規格等に基づく信頼性・性能評価 |
| 適合性確認 | NBによる適合性確認 (準備中) | <ul style="list-style-type: none"> ・自己適合宣言の対象項目に対する適合性確認 |



Thank you!

SGSジャパン株式会社

認証・ビジネスソリューションサービス

☎ 050-1780-7686

Masanori.Oshima@sgs.com

Ryosuke.Igarashi@sgs.com

Riichi.mizuno@sgs.com



onlinestore.sgs.com/jp